

令和元年度の教育活動等に対する学校評価書

令和2年4月3日

学校法人沼津音羽学園沼津あすなろ幼稚園 園長 神宮寺 広美

同学校関係者評価委員会 委員長 増田 妙子

- 沼津あすなろ幼稚園の教育目標 心の古里を作ろう
- 本年度の重点目標 ○自然に親しむ子 ○創造性豊かな子 ○思いやりのある子 ○逞しさのある子

「挨拶から笑顔の輪を広げよう」

- 自己評価に対する学校関係者評価

※自己評価は、A（十分に成果が上がった）、B（成果があった）、C（少し成果があった）、D（成果がなかった）で表す

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
自然に親しむ	園庭や園の自然環境に進んで触れさせる	C	○初夏にダンゴムシを一緒に見つけたり何を食べるかを伝えたりした。 ○散歩に行けなくなってしまった分「園内で自然を探してみよう」と声掛けをした。なにより色々見つけることができた。 ○園庭で育てている野菜の生長していく姿を観察し、楽しめた。 可能であれば散歩を増やし四季の自然を感じたい。 ▲ゆっくり自然に触れようという時間を設ければよかったと感じた。 □周囲に自然が少ないことはわかっているので、もっと積極的に散歩に出かけた。	B	ららぽーとができたことで散歩の機会がなくなったと思う。呼応園などに出向いていく機会がほしい。
	季節に応じた保育を通して自然の様子や変化に気づかせる	B	○キンダーブックにて葉っぱの色付きを学び、とても興味を持って見ていた。本物を探そうと園庭に出たが、きれいな葉っぱは見つからなかった。 ○子どもたちはヒヤシンスにとっても興味を示していた。 保育者が花を持参して子どもたちに紹介するのもよかったと感じる。 ○冬なのにセミの抜け殻を欲しがると暑い夏にならないと見つからないと話した。 ○壁面やキンダーブックで季節の自然に興味を持つことはできた。 ○壁面製作はなるべく季節感のあるものを取り入れた。	B	
	子どもが見つけた自然の様子を保育に活かそうとする	C	○きれいな花は門のところに咲いているが、木が奥のほうにあって見つけにくい所に面白い葉がある。目につきやすい所に植えたら部屋からも楽しめそう。 ○園庭の石を宝の石だと言って集めていた子に、他にもイチゴやブドウに似た形もあるかなと投げかけケーキ屋さんの飾りにした。 ○子供が見つけたセミの抜け殻をみんなで観察したり本で種類を調べたりした。 ▲あまりできなかった。 見つけた自然物の遊びや製作を紹介したり、絵本や図鑑を読んだりしていきたい。	B	
	自然を生かしたあそびを紹介する	D	○遠足で持ち帰ったもので顔を作る。またトトロのどんぐりのように保育者が作ったものへの子どもの興味の示し方はとても参考になった。 ▲幼稚園の周りに自然が少なくなり、自分自身も苦手な分野でもありもう少し勉強していかなければと思う。 ▲自然物が少ないのを理由にあきらめてしまっていたが、なによりやり方を変えればよかったと反省。 □自然を生かした遊びを知り、実際に体験できるようにしたい。	C	園外保育で先生が花を摘んで花輪を作ってくれたのでとても喜んでいました。こんな機会を増やしてはどうか。
創造性豊かな子	運動会・発表会等の取り組みの中で個々の特性を見付け伸ばす	A	○人前が苦手な子が劇をやり、以前より人前を嫌う様子が見られなくなった。(クラス内では手を挙げ、意見を言うようになった) ○練習に熱心に取り組もうとする子、他の友達を巻き込みながら全力で盛り上げてくれる子等様々な個性が見られた。 ○今年の学年に合った内容を行うことができた。団結する大切さを教えられた。 ○初めてのことに興味を持ち、一人一人が十分に練習の成果を出せ成長につながった。 ○ 発表会では叱る指導をせず、ほめながら良い雰囲気づくりを心掛けた。	A	運動会や発表会では短期間で指導をしてくださりありがとうございます。発表会の衣装は園で保管して再利用してはどうか。
	子どもの発想を尊重したり引き出したりする保育を心がける	B	○子どもの発言により製作の工程を一部変えた。→個性がさらにあらわれる作品となった。また、劇の台詞を一部変えたりもした。 ○指導中でもなるべく子どもがアイデアや経験の話をしたら聞く姿勢をとった。すると、子どもの活動への意欲も高まった。 ○製作する際に目や口の形などは見本を書かずに好きに作らせるとオリジナティーが出た。 ○子どもへの問いかけや子ども同士で話し合う機会を多く設け、発言できる場を増やした。子どもの意見はなるべく取り入れた。	B	
	言葉の発達や言葉への関心を高めたりするような保育や環境づくりをする	B	○右、左を黒板に書いておいたり、簡単な文章を言葉だけでなく書いて見せたりすることで読める楽しさを味わっていたと思う。 ○行事や一つの物（初めて目にする物）は全員で繰り返して言った。覚えたものを言いたがる子が多くなった。 ○のり、マジック、クレヨンなど→道具の呼び名がわからない子もいるので年少	B	

			の始まりは並べて言ってみることも必要な？ ○保育の中でも内容を黒板に平仮名で書いたり、言葉の意味を説明したりした。		
	五感を使って遊んだり、ものを作ったり描いたりする楽しさを沢山味わわせる	B	○家ではあまりできない絵の具遊びや好きな遊びの日等を存分に楽しめた。 ○墨汁を使った際、絵の具との違い（におい、伸びなど）に気付き楽しんでできた。 ○年少児の子どもたちの絵が、なぐり描きから顔、頭足人、人へと成長が見れうれしかった。 ○どろんこやボディペインティングは嫌がる子もいるが、楽しそうにはじけている友達の様子を見るだけでも良い経験になると思うので続けていきたい。	B	
	体の動きや音楽的な表現を楽しむ遊びを大切に	B	○時々運動会や発表会のダンスの曲を流すと思い出してノリノリで踊る子が出てくる。仲間が増えてクラスがまとまってくる。 ○行事のフォークダンスや運動会、発表会の中で音楽に合わせて動くことは大いにできた。 ○ピアノ、ハーモニカ遊びが始まり、苦戦しつつも成果を出すことができた。 ○朝の体操や行事のフォークダンス等では表現を楽しんでいた。 リトミックなども取り入れていきたい。	B	
思いやりのある子	動物グループの活動を積極的に進める	A	○あすなろファミリーの活動を楽しみにする子どもも多く成果がある。 ○幼稚園の目標として異年齢児との交流を深めていくものなので、意図的にペアづくりをしたり上級学年が兄姉らしいことをしたときは大いに褒めたりした。 ○ もっと交流の機会を増やしても良いと思う。 ○行事や絵本の日、ランチの日を通してよく関わることができた。 ランチの日をもっと増やしたい。	A	上級生になり、年下の子に対して親身に優しく接することができるようになった。
	自由遊びの時間を確保し子ども同士が触れあえるように	B	○カード類は朝に行い、昼遊びは自由にした。→子ども同士で遊ぶ力がついた。 ○集団遊び（鬼ごっこ、部屋でのブロック遊び等）が好きになり、クラスのまとまりが出た。 ○朝、昼と友達同士で誘い合う姿が見られた。 運動カードと自由遊びの配分が難しいと感じた。 ▲茶色バスの子の朝の遊ぶ時間がないことが気になる。	A	
	学年の枠にとらわれない保育を意図的に採り入れる	B	○あすなろファミリーで学年の枠にとらわれず楽しんでいると感じる。 ○朝ドッジボールをやるとき、「年中組の子も誘っておいで」と子ども同士で誘い合える場を作った。 ○動物グループ活動や遊戯の見学で関わることはできた。 昼食を一緒に食べる、遊ぶ等の活動をもう少し増やしても良いと思う。 ○子どもたち同士は年長中児が年少児のお世話をしたり遊んでくれたりしたが意図的まではいかなかった。	A	自分のクラスの子だけでなく、園全体の子に目を向けてくれる先生方に感謝している。
	子どもが絵本好きになるように時間を確保したり環境を整えたり	C	○1学期は意識して多く読むことができた。2学期は行事に追われなかなか読めなかった。3学期はなるべく読むように心がけている。 ○少しの空き時間に読み聞かせたり給食後に読んだりしてきた。自分から積極的に読むようになった。 ○給食後は絵本の時間を設けたり保育の中で空いた時間があれば読み聞かせをしたりして絵本に触れる機会を多く作った。 ▲3学期は製作物が多く欠席の子は後日作る＝自由遊びの時間になってしまう。ゆったりとした時間を作って絵本や紙芝居を読みたかった。	B	おやこんぼの日の前に図書の貸し出しがあったら、読書に親しみ良い機会になると思う。
	協力や助け合いを引き出すような学級運営を心がける	B	○困っている子がいると保育者ではなく子どもたちになるべく手伝ってあげられるよう声掛けをしている。周りを見て困っている子はいないか見てくれる子がいる。 ○満3歳児が次々と入園したので一緒に遊んでもらったり身支度を手伝ってもらったり自然に助け合う姿が見られた。 ○「こうして」ではなく「こういう時はどうしたらいい？」と子ども同士で考えたり話し合ったりする時間を多く作った。 ○ 友達同士でトラブルを解決したり助けに行き声をかけたりする姿が多く見られた。	B	
逞しさのある子	遊びの中でも体力や体の動かし方が身に付くように配慮	B	○運動会の練習の中で、どこを伸ばせばかっこいいのか考えたり走り方の練習を何度も行ったりしたためとてもよくなったと思う。 ○一緒に鉄棒へ行き手伝って体の動かし方を教えた。力の入れ具合がわかると一人でできた。 ○ドッジボールや鬼ごっこ等ルールのある遊びを行う中で、投げ方、走り方を教えて力をつけていった。 ○鉄棒やのぼり棒に触れる機会も多く持ち、できない子もほめながら苦手意識をなくしていけるようにした。	B	
	カードを利用するなどして目標を持ちやすくしたり自ら運動しようとする雰囲気高めたり	B	○初めは自ら取り組むという意識は低かったが、周りの年長児のカードへの取り組みが良い見本となり少しずつ前向きになってきた。 ○カードがあることで次の目標が明確になり取り組みやすかった。朝の時間がカードばかりにならないよう注意した。 ▲年中に向けてだれもがもらえるような目標達成カードを作り運動に対して意欲が持てるようなことへつなげればよかった。 □年少児も3学期頃から3項目程度のカードがあると意欲的に取り組みそう。	B	カードを初級、中級、上級などに分けて区切りをつけ、達成感を感じさせることでやる気を引き出すのはどうか。

<p>いろいろな運動遊びを紹介する</p>	<p>B</p>	<p>○年長児の見よう見まねでのぼり棒や鉄棒にチャレンジする子もいる。 ○ルールのある遊びをいろいろ教えた。子どもが教えてくれた遊びもあり一緒に楽しむことができた。 ○日常の保育だけでなく「好きな遊びの日」の運動遊びや年長の発表会などを見て子どもたちに伝えられた。 ○鬼ごっこの中でも少しずつステップアップして、色鬼やドロケイにも取り組むことができた。 □今後より多くのルールのある遊びを提案していきたい。</p>	<p>B</p>	
<p>食に関心を持たせマナーやバランスのよい食事にも配慮する</p>	<p>B</p>	<p>○時間内に食べ終わる大切さを伝えた。ご飯→おかずと交互に食べる大切さを伝えた。一偏る子が少なくなった。 ○完食のほかに箸の持ち方、座り方、よく噛んで食べることの意識をもてるよう伝えた。 ▲年度当初に食事を残さないとの目標を設定したため無理をさせてしまったことを反省している。極度に食が細い子に対してどう対処したらよいか課題である。 □食に関する楽しい絵本を読み、食事に明るいイメージを持てるようにしたい。</p>	<p>C</p>	<p>給食のご飯が多い。年齢別に増やしていくとかできないか。</p>
<p>友だちが少ない子や孤立しがちな子の支援を心がける</p>	<p>B</p>	<p>○「一緒にやってみてね」と声をかけると、すぐに誘い出して一緒に過ごしてくれる子がいた。友達と遊ぶ楽しさを少しずつ感じられているようだ。 ○個別に寄り添い出来たことは褒めたり、スキンシップを心掛け自信が持てるようにしたり、保育者が仲立ちとなり遊んでいる輪に誘ったりした。 ○動物グループのおかげか園全体で大きい子から小さい子への思いやりの心が育っていると思う。年少同士でも困っている子のそばに行き行ってあげるなどチームワークがとてもよいクラスと感じた。 ○満3歳で入園してきた子に対してお世話の上手な子に頼んでクラスの輪の中に入れるようにした。</p>	<p>B</p>	
<p>継続して運動に取り組むような体制作りをする</p>	<p>B</p>	<p>○引き続きカードを利用していきなさいと思う。カードに頼りすぎても…と思う瞬間もあったが、シールやメダルをもらうことで次につながっていたと思う。 ○戸外遊びをするよう常に声掛けをした。保育者自身も外に出て子どもたちと走り回りたい。 ○年少児にとっては年中組に進級してからのことを考え、体を動かすことの面白さ、楽しさを感じさせるような簡単な集団遊びを行っておくことが大切かと感じた。 ○朝の体操後、鉄棒やのぼり棒をしたりマラソンをしたりすることで、運動が苦手な子も自信を付けて頑張れるようになった。 ○自分で目標を持つことを3学期の頑張ることにしたこと、目標を達成しようとする頑張りが見えた。</p>	<p>B</p>	
<p>令和2年度に向けての改善策</p>			<p>上記以外の意見(抜粋)</p>	
<p>☆今後も保護者のニーズを的確に把握して園運営に積極的に反映させる。 ☆月1回の避難訓練を継続、深化させる。訓練をとおして具体的な問題点を洗い出し、職員が共通理解を深めている。そのことにより、より安全で安心できる避難の方法を積み上げ、万全の体制を整える。 ☆朝の体操、持久走は多くの改善がなされたが、更に個に応じた細かい配慮をし今後も継続して取り組み、基本的な生活習慣の確立と体力の向上を図っていく。 ☆運動カードなどを通して運動機能の発達や体力の向上に資することができた。カードの工夫など個に合わせた指導法について工夫すると共に指導が前のめりにならないよう発達段階に十分配慮する。年少児用のカードづくりを行う。 ☆食育を意識したカリキュラムの推進・食事(給食)の摂り方を考え、健康の保持・増進により一層努める。 ☆カリキュラムの反省を常時行い、新しい試みを積極的に採り入れる。新幼稚園要領の理解を深め保育に活かしていく。 ☆保育者の指導力向上と園の保育水準向上のため、園内研修に積極的に取り組む。さらに外部の研修会への積極的な参加を促す。 ☆預かり保育の充実を図りつつ利用についてその利便性を高める。 ☆年度の重点目標を設定したことは効果があった。教職員のみならず、保護者、園児にも働きかけ、共通の目当てに向かって活動を深化していく。</p>			<p>・預かり保育において、手が足りないのはわかっていますが、手のかかる子にばかり先生がついていて全員に目が行き届いていないのではないかと心配になる場面をめにしました。 ・筆を使い作品を仕上げているのには感動しました。 ・先生が送ってくださる年賀状や暑中見舞いのはがきはとても手が込んでいて嬉しいのですが先生方の負担が気になります。印刷などにして負担減を考えてほしい。 ・</p>	